ノウフク・アワード2022応募用紙(記入例)

【社会福祉法人等の福祉サービス事業所が実施主体】

1 応募者の概要

運営主体(企業・	しゃかいふくしほうじん 〇〇かい						
団体•法人名等)	社会福祉法人〇〇会						
事業所名	しゅうろうしえん B がたじぎょうしょ のうふくかい						
	就労継続支援B型事業所 ノウフク会						
代表者名	(ふりがな) のうふく たろう						
	 氏 名 農福 太郎 (役職: <mark>施設長</mark>)						
所在地•連絡先•	住所 〒○○○-△△△△						
担当者名等	OO県△△市□□町××-××						
	メールアドレス:						
	ホームページ(URL)						
	バーム・・・・・ (ORL) 担当者名:農林 福太郎 (役職: 係長)						
 法人等の種類	□農業法人 ☑社会福祉法人 □一般社団法人 □NPO 法人 □株式会社						
が、一方の大学の大学	□特例有限会社 □合同会社 □その他(
取組主体	 □農林漁業経営体 ☑社会福祉法人 □NPO 法人 □特例子会社 □JA 等組合						
	□生協 □地方自治体 □その他()						
障害者等の就労	□農林漁業経営体等に雇用						
等の形態	✓障害福祉サービス事業所に就労						
	□特例子会社に雇用						
	□農林漁業経営体等に施設外就労						
	□その他()						
設立年月日	(西暦) <mark>2010年1月 (設立 11</mark> 年目)						
農福連携開始年月日	(西暦) 2012年5月 (開始 9年目)						
取り組んでいる事業	☑農業 □林業 □水産業 □加工業 □その他()						
組織の変遷	2010年1月 就労継続支援B型事業所ノウフク会開設						
	2012 年 5 月 農地を取得し、農業を開始 1017 年 5 月 思中農業者を開始 1017 年 5 日 137 年 8 日						
	2017年6月 認定農業者を取得 2018年7月 レストランを開設						
 福祉サービス	□A 型事業所 □B 型事業所 □生活介護 □その他() □該当なし						
連携企業、事業							
所名等	 ※グループ内連携の場合は連携企業名等を記載						
(福祉サービス)	□A 型事業所 □B 型事業所 □生活介護 □その他() □該当なし						
農福連携の体系	社会福祉法人〇〇会 —— 多機能事業所〇〇会						
図	一 グループホーム						
	レストラン〇〇ノウフク直売所						
障害者数等	雇用者数又は利用者数:25人 うち農業等に関わっている人数: 20人						
取得済みの資格	☑認定農業者 □6次産業化認定事業者 □GGAP □JGAP □その他の GAP						
等	□有機 JAS ☑ノウフク JAS □エコファーマー □その他()						

- 2. 取組の背景(きっかけ)・目的(必須) ※400文字以内で箇条書きにて記入してください。
- ◆2010年1月に社会福祉法人○○を設立し、就労継続支援 B 型事業所を開所したが、企業等からの下請け業務が減少し、障害者の就労の安定化や工賃向上などを目的に新たな働き場所として農業を検討
- ◆JA や町役場に農地の取得等について相談したところ、現在耕作されていない農地であれば、貸すことができると言われ、事業所から1⁺。離れた場所に30a の農地を借り農業を開始。
- ◆手探りで始めた農業であったが、JA の紹介で近隣の高齢農業者の方から農業指導を受け、安定した生産が得られるようになった。
- 3. 取組の体制、具体的内容【農福連携の取組みだけでなく、農福連携を通じた様々な活動(直売所、レストラン、観光農園等の開設、地域イベントへの参加等、他企業等との連携についても記載してください)】(必須)
 - ※1200文字以内で箇条書きにて記入してください。
- ◆知的障害者、精神障害者に加え、引きこもりの方、25名で農作業などに取り組んでいる。障害者への農業 指導は、地域の高齢農業者が福祉事業所職員(支援員)に農業指導し、福祉事業所職員が障害者の特性に 応じて、農作業を分かりやすく指示している。
- ◆ 当事業所では、3名の職員が農業関係の業務を行っており、障害者と共に農作業を行っている。
- ◆指導をお願いしている高齢農業者の農作業の手伝いに出向くことで、他の高齢農家からも農作業の手伝いの依頼があり、地域農家との間で Win-Win の関係を構築
- ◆自分たちの取組みが認められるようになり、地域の高齢農家などから農地を借りてほしいとの要望があり、農地面積は1.2ha まで拡大。これを契機に認定農業者となった。
- ◆生産している農産物は、だいこん、にんじん、ピーマン、なす、玉ねぎ、ブルーベリーで、これらを使った加工食品も製造している。
- ◆工賃向上と周年作業を目指して、2018年、農林水産省の農福連携対策費を活用して農業ハウスを建て、 トマトの栽培を行っている。
- ◆JA から廃園となった茶畑を使わないかとの打診があり、今後はお茶栽培もおこなう予定。
- ◆ 地域内外との交流を深めるためブルーベリーの観光農園とレストランを開設し、直売所の従業員も障害者が一部業務を担っている。
- ◆ブルーベリー観光農園には毎年、地域内外から多くの人が訪れ、レストランも自農園で栽培された野菜等を使ったメニューをランチで提供したところ、口コミもあって、地域内外から多くの人が来ている。
- ◆2020 年にノウフクJASを取得したところ、近隣のレストランからノウフクJASの農産物を使いたいといった 依頼があり、現在2店舗にノウフクJASの農産物を販売しており、収益向上につながっている。
- 4. 取組実績(必須) ※農地面積、荒廃農地の解消、売上高、障害者等の工賃(賃金)、農作業に関わる障害者数、障害者に 農作業を委託している経営体数、交流人口等、取組実績がわかるものについて、項目ごとに取組当初 時と直近5年間の推移を表形式で記入してください。

項目	単位	取組当初	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
障害者	人	15	20	20	25	25	25
平均工賃	円	13,000	20,000	21,000	25,000	26,000	30,000
農地面積	а	30	50	50	80	120	120
農業ハウス	а	0	0	20	20	20	20
農業収入	万円	10	300	500	450	520	550
レストラン売上高	万円				100	150	200
観光農園来場者数	人			300	500	800	1000

5. 取組の工夫(必須) ※取組に当たって工夫されている点を400字以内で箇条書きにて記入してください

障害者の安全確保と農作業を増やすため農薬等は極力使用せずに、除草や虫害対策も手作業で実施

- ◆作業所内の各所に農作業の手順等をわかりやすく記載した掲示板を設置
- ◆農作業はグループ制で行い、それぞれが役割分担しながら農作業を実施
- ◆グループごとにリーダーを設け、リーダーが中心となって農作業を実施

- **6. 取組の効果(必須)** ※取り組んだことにより、①障害者等、②農林水産業、③地域に対してどのような効果を生み出しているかをそれぞれ400字以内で箇条書きにて記入してください。
- ① 障害者等(工賃や賃金の向上や障害者の自立、一般就労につながった事例、多様な人々が働くことができる職場環境の創出などについて記載してください)
- ◆県平均を大きく上回る平均工賃を実現。障害者の中には月4万円の工賃を実現した者もいる
- ◆農業開始当初から農業に従事していた障害者1人が、地域内の農業法人に就職
- ◆農業に長く携わっている障害者については、リーダー制度により、リーダーに昇格させ、工賃にも差を設けるなどにより、責任感を持って仕事ができるように工夫している。
- ◆地域外から通ってくる人もいるため、事業所近くにグループホームを開設し、現在、10 名が暮らしており、 近隣の住民も彼らに対する理解が深まり、お互いが協力し合う姿が見られる。
- ◆他県から見学に来た大学生が、卒業後はここで働きたいということで、これまで3名の方が就職し、障害者と一緒になって農作業などを行っている
- ② 農林水産業(取組を通じて荒廃農地等の減少、労働力の確保、経営の安定、生産性の向上や収益の向上等、地域の農林水産業の維持・発展等にどのような効果を及ぼしているかを記載してください)
- ◆地域の高齢農家の農地の受け手となっており、現在も農地を借りてほしいといった高齢農家が数件あり、 規模拡大を図っていく予定である。
- ◆認定農業者を取得し、JAの組合員にもなったことから、地域の中心的な担い手として位置付けられている
- ◆高齢農家に出向いて農作業の手伝いを行っているほか、買い物支援も行っており、地域からは信頼される 立場となっている。
- ◆地域の祭りや運動会などのイベントにも積極的に参加、地域交流を図っている。
- ◆レストランや観光農園を開設したことにより、地域内外から訪れる人が多くなり、JAが開設している直売所にも多くの人が訪れ、地域の活性化に貢献している。
- ◆ノウフクJASの取得により地域のレストランとも連携が図れているほか、市内の特別支援学校の生徒を招いて農業体験を行うことで、連携を深めている。
- ③ 地域(地域内外との交流、地域コミュニティの維持・再生、地域内連携による地域活性化等につながっている事例を記載してください)
- ◆農福連携に取り組んだことにより、県外からも多くの人が視察に訪れるようなったほか、農福連携に取り組みたい人向けのセミナー等で講師を務める機会が増えた。
- ◆地域外からのレストランやスーパーなどからも当事業所の農産物を使いたいといった申し出があり、販路 の拡大を図っている。
- ◆障害をお持ちの親御さんから、ここの事業所でうちの子供を働かせてほしいといった要望も多く寄せられており、事業所の増築を検討しているところである。
- ◆ノウフク JAS の取得で農産物に対する信頼感が増し、販路の拡大につながった。今後はGAPの取得も検討している。

7. 取組内容がわかる写真等					
※写真、図表等を貼付し、20 文字以内で説明を記入してください。取組内容を代表する写真を必ず 3 枚以上貼付してください。					
※第三者の肖像権、著作権、プライバシー等を侵害することのないように十分注意してください。					
	1				
	1				
	1				
8. 表彰等の受賞歴(該当があれば記入)					
表彰名等(受賞年度)	主催者				

9. 取組に関する PR・エピソード(自由記入、写真、PR 動画 [®] 等添付可)。1200 字程度

- ① 記入欄には指定された文字数の範囲内で記入してください(文字の大きさも、当初の設定から変更しないでください)。
- ② ノウフク・アワードは、農福連携の普及啓発を目的に、表彰された取組内容はもちろんのこと、優良な取組事例を全国へ発信することとしており、応募用紙に記載・掲載いただいた内容及び写真については、農林水産省が行う広報活動及びノウフクポータルサイト(ノウフク Web)への掲載並びに地方公共団体への情報提供等(農林水産省ホームページへの掲載、選定事例集への掲載、政府施策紹介資料への掲載など)に使用することがございますので、あらかじめ御了承ください。(個人名については公表、使用はいたしません。)
- ③ 提出いただいた応募用紙等については返却いたしませんので、あらかじめ御了承ください。
- ④ 「9. 取組に関する PR・エピソード」に PR 動画を添付する場合は、動画共有サイト(YouTube / Vimeo 等)や クラウドストレージサービス(OneDrive / iCloud / Dropbox / Google ドライブ)等にアップロードの上、URL を記入してください。